さいたま市立桜木中学校　学校だより

さくらぎ

本校は、令和８年度に創立 80 周年を迎えます

第　７　号　令和 ７ 年10月 31日　発行

〒330-0854　さいたま市大宮区桜木町4－219
TEL　048－641－0459
FAX　048－645－4584
E-mail　sakuragi-j@saitama-city.ed.jp

「ことばの灯り、心のまなざし」

～小さな声が、誰かの歩みを支えるとき～

校　長　　森角　由希子

秋が深まり、空気の冷たさに季節の移ろいを感じる頃となりました。朝夕の静けさの中で、自分の心と向き合う時間が少しずつ増えていくように思います。11 月は「いじめ撲滅強調月間」。この機会に、言葉の力について、少し立ち止まって考えてみたいと思います。

母が小学生だった頃、発表会で担任の先生から「一人で舞台に立って歌ってみないか」と声をかけられたそうです。緊張しながらも歌いきったその経験は、母にとって大きな自信につながったと聞いています。先生の一言が、母の心に灯をともしたのです。

時を経て、私が幼い頃に父を亡くしたとき、母はピアノの先生に「この子には、ピアノを続けさせてあげてほしい」とお願いしてくれていました。レッスンでは、うまく弾けずに泣きながら鍵盤に向かっていたこともありましたが、先生はその姿を母に伝えてくれていたようです。母の願い、先生のまなざし、そして言葉のやり取りが、私の音楽との関わりを静かに支えてくれていたのだと思います。

私の家系に音楽に勤しんだ者はいないようですが、母の小学校での経験、そして私が音楽を続ける発端には、誰かの言葉がありました。言葉は、時に人を傷つけることもありますが、誰かの背中をそっと押し、心の居場所をつくる力ももっています。何気ない一言が、誰かの人生の方向を静かに変えていくこともあるのです。

いじめは、目に見える行動だけではなく、言葉のすれ違いや無意識の態度の中にも潜んでいます。だからこそ、私たち一人ひとりが、日々の言葉づかいを見つめ直すことが大切です。誰かを傷つけないだけでなく、誰かを支える言葉をもつこと。それが、安心して過ごせる学校づくりの第一歩になるのではないでしょうか。

秋の空気に包まれていると、ふとした瞬間に、誰かの言葉が胸の奥に響いてくることがあります。その言葉が、知らず知らずのうちに自分を支えていたことに、静かに気付くのです。そして今度は、自分の言葉が、誰かの迷いにそっと寄り添い、前に進む勇気を与えることもあるでしょう。言葉には、人と人との間に橋を架ける力があります。その橋が、誰かにとっての「心の居場所」になるように、私たち自身の言葉を大切にしていきたいものです。